

# 千刈狸の呟き

## ～ 使 命 ～

3月11日、東日本大震災が起きた。その日から数日しか過ぎていない状態での独り言なので、大目にみていただきたい。

秋田県は東北地方の中で唯一、この震災によって亡くなった方がいなかった県である。今回の震災に遭い、他ではなくこの立場で日々を過ごしている。その後の変化はめまぐるしく、右往左往しながらの日々である。現時点では、原子力発電に関する状況が刻一刻と深刻度を増している。時間の流れ方が変わったと思う。

災害の凄まじさを知る前、震災の日の夜に電気が無いという初めての経験をした人は少なくないだろう。あの夜、当直の先生やスタッフ達と蝋燭の灯りを囲みながら不思議な感覚を共有した。誰もが、安否が知れない家族や知り合いがいて連絡がつかない状況だったし直接的な被災地ではなかったのだが、「私達は生き残ったのだ」という直感的な空気になっていた。それから、言葉や振る舞いや気配りや、まずコミュニケーションの仕方が変わっていった。人類の生存のための仕組みはこんなこともあるのかと、どこかで納得した。

今は、普通にあったものが無い状況を通じて本当に何が必要なのか、有難いという事は何かを私達は被災した国の一人として日々体験し、心と身体に刻み込んでいる。

この震災に対して、そのマグニチュードをも越えるであろう人々のエネルギーが世界から日本にむけて広がっている。この時をどんな立場で迎えたのか、それをどう受け止め、それからどう動いたのかは、後世評価されるのであろう。

たとえば、医療関係者として今この時を生きる者は、それを使命としてやり抜くしかない。

「生命があっただけでも幸いだった」という人々の生命や生活をこれからも守っていかなくてはならない。

現地では今まで普通の生活基盤の上に行われれていた検診や予防接種や保健事業などに関しても、どう捉え直していくのかが問われていく。

日本全体を大きなネットワークで支えていくために、以前にも増して連携や協力を重視したい。

震災の支援のために日本に向かって出発する際に、隊員達にむけたオバマ大統領の演説を付記したい。

世界全体から日本への思いを感じつつ、いろいろ考えさせられている最中である。

はっきりしたメッセージによらない使命感や思いによって結ばれている日本人の底力と可能性を信じながらこの国の再生に立会いたいと思っている。

頑張れる、頑張りたい、頑張れ！ **日本。**

「おはよう、諸君。

あと、一時間足らずで諸君140名は極東に向かって旅立ち、史上最強の敵と交戦する。

諸君がまもなく赴く戦いは、人類史上最強の救出活動となるだろう。

人類...この言葉は、今日、我々全員にとって新たな意味を持つ。地球に対する今回の暴挙行為に関して少しでも意味があるのなら、それは我々人類が共有するものの大きさにきづかせてくれたという点につきるだろう。

人間同士の無数の差異など些細な事ではないことを痛感させ、共通の利益というものの意味を実感させてくれた。そしてさらに、歴史の方向を変え、人間であることがどういうことかをも定義し直してくれた。3月11日は地球上のあらゆる国家が肩を組み、こう叫ぶ日となるだろう。我々は決して従容と死を受け入れたりはしない。我々は生き続ける。生き続けてみせる、と。その日こそ、我々は真の独立記念日を祝うのだ。」

(戸田奈津子氏訳、中略あり)

(月影の狸)